



登れるくらい低い場所がありました。雪で低木が埋まり他の時期とは違った風景を見ることができのかもしれない。(左から硫黄岳、大岳、小岳)



少し解けたと言っても、高いところは大人3人分を超えるくらいの高さがある雪の壁。上に登って周りの様子を見て楽しむ人もいました。

八甲田十和田コープラインは、酸ヶ湯から十和田湖周辺につながる約8kmの道路です。例年11月下旬ころから冬季封鎖され、翌年雪を道路脇に積み上げる除雪作業が終わると4月初めに封鎖が解除され、雪の壁の中を通る「雪の回廊」が開通します。

壁の高さは、その年の天候や気温に左右されますが、2024年4月の開通時は平均6m、高いところでは7mに達していたそうです。写真では開通から10日ほどたっているため、壁はすこし低くなっていますが、それでも圧倒的な迫りがあります。壁と表現していますが、力があります。壁と表現しては、雪の上は延々と雪原が広がっています。来冬まで残っているような見た目をしてはいますが、雪は解けていており、ゴオーという音と共に水が流れ込んでいる所や小さな川のようになっているところ、さらに雪が解けて土が出てくる場所からはフキノトウがひょこり顔を出していました。

季節の移ろいとともに数mあった雪の壁は豊富な雪解け水になり、長い時間をかけて、山の木々や落ち葉、コケ、土、砂や石などに浸透しながら地下に浸透します。地下に浸透した雪解け水は湧き水として八甲田山中に湧き出し、近隣の町では伏流水を使ったりおいしい豆腐やお酒が造られるとともに、飲料水や農業用水にも使われます。また雪解け水には、魚介類のエサとなる植物プランクトンの増殖やホタテの成長に必要な栄養がたっぷり含まれているため、雪解け水が注ぎこむ陸奥湾では豊かな水産資源が育まれるとともに、ホタテ養殖にも欠かせません。昭和59年に八甲田山の前岳(標高1,252m)を源とし、生活用水として利用されている青森市横内川の水は、厚生省(現・厚生労働省)の「おいしい水研究会」が行った利き水会で全国12カ所の水の中から「おいしい」と答えた人が最も多く「日本おいしい水」となりました。

ゴールドラインの十和田湖側のすぐ下には、青森県内の生協で協力し毎年牛乳パックリサイクルの売上金を活用して、三八上北森林管理署の協力のもと「生協ふれあいの森」で植樹を行っています。ほんの少しの面積ですが、植樹した木が水資源確保にも役に立っているとちょっと少しうれいですね。

五所川原地域と浪岡センターが 合同でサニタードライブに取り組みました。

2月5日(水)、五所川原市社会福祉協議会へ、五所川原地域と浪岡センターの合同で取り組んだサニタードライブで、組合員の皆様からご寄付いただいたマスクや介護用おむつなどの衛生用品を寄贈しました。

五所川原地域と浪岡センター合同のサニタードライブの取り組みは、2022年から継続して取り組んでいます。

2月5日の寄贈式では、五所川原市社会福祉協議会乗田孝一会長へ、五所川原地域代表の小山内さんと浪岡センターの別部センター長から、寄付で集まった物品を寄贈しました。

寄贈した物品は、五所川原子ども宅食おすそわけ便などで活用され、生活に困窮している方などに配布されます。



▲寄付品を受け取る乗田会長(写真左)と寄付品を贈呈する小山内さん(右奥)、別部センター長(右前)

◀五所川原地域と浪岡センターが宅配を担当する五所川原市、つがる市、鯉ヶ沢町などの組合員さんから寄付いただいた衛生用品。



「古紙リサイクルで笑顔!こども食堂応援 キャンペーン」のオープニングセレモニー を実施しました。



生活協同組合コープあおもり、青森県民生活協同組合、株式会社伊徳、株式会社伸和産業が4社合同で、スーパーの各店舗(合計で20店舗)に設置している古紙回収ボックス(エコステ・エコキューブ)に集まった古紙を、回収量に応じてこども食堂へ寄付する青森県では初の取り組み「古紙リサイクルで笑顔!こども食堂応援キャンペーン」のオープニングセレモニーを1月21日に弘前市のコープあおもり和徳店で実施しました。オープニングセレモニーでは、古紙のリサイクル業を営む伸和産業の太田社長(左上の写真)が挨拶し、「地域の居場所づくりを応援することで、より良い地域づくりに貢献する継続した取り組みにしていきたい」と語りました。

取り組みは、1月21日~2月20日まで取組まれ、1キロ当たり2円を青森県社会福祉協議会を通じて子ども食堂に送ります。



西弘店のエコステ

エコ・ステって?

新聞や雑誌、雑紙(菓子箱や封筒)など、段ボールを持ち込み、重量に応じたポイントを貯めてお得にお買い物ができる古紙回収ステーションの事です。